

遠藤元助手、工学院大学准教授に就任—新たな門出を祝う— Dr.Endo gained the position as associate professor at Kogakuin Univ.

6月19日(金)19:30からお茶の水トラットリア・レモンにて、「遠藤新氏の新たな門出を祝う会」が開かれた。遠藤元助手は4年間の金沢工業大学での研究成果を携えて、今年の4月から工学院大学准教授として新たなスタートを切られた。遠藤助手時代のOB.OGから金工大時代に八尾PJでお世話になった方も含め総勢20名ほどが集まり、「想定外の人もいるが、同窓会のような(遠藤先生談)」時間となった。

*紙面の都合上、掲載が遅れてしまったことをお詫びいたします。

The Celebration party for new departure was held on 19th June at Ochanomizu. Dr.Endo, the former assistant professor, has studied in Kanazawa Institute Univ. for four years and this spring he gained the position as associate professor at Kogakuin Univ. About 20 OB.OGs attended at this "mini reunion".

遠藤先生は1997年に修士課程を修了、博士課程に進学後に当研究室の助手に就任。2004年に博士論文「地区を顕在化する都市再生手法の研究—米国中西部ダウタウン・フリンジの再生戦略を中心に—」で博士号を取得。2005年から4年間金沢工業大学講師を経て現在に至る。

大学での指導の傍ら、地方都市で都市デザインへ専門的立場から関わってきた経験から、「お金と時間がかけられず、地方都市ほどアーバンデザインをやっていない。その仕組みづくりが必要だ」と語る。

金工大、そして現在の工学院大学では、遠藤先生単独で研究室を持たれ、所属学生の指導にあっているという。「私立大は先生一人が扱う生徒数の規模が違う。(先生が豊富な)東大の恵まれている環境を十分に活かせ。」「プロジェクトをやりっぱなしではなく、そこから方法論を確立していかないといけない」と現研究室に檄を飛ばした。

現在空間研主導で進められている「アーバンデザインセンター研究」に参加しているが、「東大と何か一緒にやれたらいい。面白い話募集中」と語った。



▲久々の「遠藤・中島コンビ」でパーティーはスタート(左下)総勢20名ほどのOB.OGが門出を祝した(右下)学生時代の応援団経験を活かし、都市工にエールを送る遠藤先生

“The Japanese Cites Through Foreign Student’s Eye”

今号から不定期で留学生のエッセイを掲載していきます。テーマは「留学生から見た日本の都市」。1回目の今回は昨年の4月にバングラディッシュからの研究生として来日し、冬学期から博士課程に所属するKahn Tariq Mahbubさんです。

D1 Kahn Tariq Mahbub

It's now almost a year and half to the day since I arrived in Tokyo. It is a constant benevolent surprise, the biggest city I have ever seen. One of my first impressions of Japan was of the subway system. I was astounded at the maze of train lines, subway lines that made their way beneath the giant metropolis at which Tokyo was the centre. Public transportation is characterized by its punctuality, superb service, and the large crowds of people using it.

There's a sci-fi familiarity to areas like Shibuya, Shinjuku and Akihabara; the skyscrapers glowing with illuminated signs, subway stops inside shopping malls and taxis with automated doors. I arrived at Shibuya just as the evening started and as I walked around the area of the neon lights. I was amazed at how busy it was getting. By the time I left the place was flowing with masses of people.

I do love the historic sites and the wilderness. The landscapes are simply awesome during different seasons, in autumn, winter and

especially spring, during the cherry blossom or Sakura. Summer is the festival or Matsuri time. I was lucky enough to see the Kanda Portable Shrine festival here. I have also seen a Sumo tournament. We went there in the morning and were there till evening for the big matches.



People enjoying Sakura during the cherry blossom



Children's participation during the Kanda Portable Shrine festival

The Gardens in Tokyo are really nice places, with the silence and peacefulness. One moment my senses were being blasted by foreign sounds and sights and the next moment I was in a peaceful area surrounded by trees, shrines and temples.

What impressed me most about Tokyo was - so much could be coordinated and run together so smoothly.

大連スタジオ開幕! The Dalian Studio has Finished!!

—M1 永野、建築界の巨匠たちを前に堂々たる発表!—

M1 熊谷 俊一



▲M1 永野、堂々としたプレゼンテーション

▲M1 鈴木班のパネル

4月から建築学科と共催で行われてきた大連設計スタジオが6月23日のポスターセッション・6月30日の優秀作品講評会にて無事終了、デザ研からはM1 永野の作品『split』が優秀作品として講評会に出席し、大野秀敏さんや藤本壮介さんなど名だたる建築家の前で他の学生の作品に引けを取らぬ素晴らしい発表をみせました。

永野以外のデザ研メンバー5名もプロジェクトや研究会会議がひしめく忙しい日々の中をぬっての建築との共催設計という果敢かつ高度なチャレンジを無事全員ゴールでき、個人の今後の糧になるという以上に、建設系学科の新たな歴史の1ページに残るという偉大な功績を残した充実した2か月半を過ごせました。

プロジェクト報告:高山、鞆、神楽坂、佐原 Project Reports

鞆 今年度初の現地調査



7月3日から6日にかけて、鞆PJメンバー10名が今年度初の現地調査を行いました。建築史班は惜しくも日程が合わず来られませんでした。環境デザイン、観光、交通の各班が各プレ調査を行い、地元の方々に今年度のヨルトモ企画の提案を行いました。ヨルトモ'09は9月12日(土)、13日(日)に開催予定です!!

text_abe

高山 実現に向けて半間第一号完成



昨年度の報告会以降、地元の大工さんとやりとりを重ねてきた半間提案は、形と大きさが異なる3種類が完成しました。雨で木が腐らないよう、多少デザインが変更になりましたが、本物の木でできた実物は細部までよく作られています。今後は越中街道に住む方々や第三者の目線で評価してもらい、改善を加えながら実現を目指すことになります。

M2 土信田 浩之

神楽坂 D3鈴木、神楽坂で堂々発表

6月17日、神楽坂で開かれた「粋な住まいと建築塾(粋なまちづくり倶楽部主催)」において、D3・鈴木智香子さんが「民有地の地域資源を活かした住環境改善型まちづくり」をテーマに講演を行いました。今後の神楽坂のまちづくりの参考事例として、戸田市の三軒協定の仕組みなどについて発表がされました。鈴木さんが立派に発表される姿を見た、他の神楽坂PJメンバーは「いつか自分も...」という新たな目標を見つけたのではないのでしょうか。

D1 松井 大輔

佐原 「夕涼み」イベントに向けたMTG

7月1日~2日に佐原を訪れ、地元のおかみさん会と夕涼みという夏のイベントの打ち合わせを行いました。夕涼みでは回遊性の実験を行います。また、工学院大学から今年のミスあやめの小林由理さんがメンバーに加わり、新鮮な気持ちで夕涼みに望みたいと思います。

M1 大熊 瑞樹

修士研究への第一歩を踏み出す

The first step for Master thesis



—M1、初の研究室会議に臨む—

6月25日に開かれた研究室会議はM1にとって初めての発表の場となりました。空間計画や歴史研究、社会現象に対する興味など、都市へのアプローチは9人それぞれ多岐にわたり、初回にもかかわらず多くの興味深い議論が交わされました。今後の展開が楽しみです。

text_nakashima

- 阿部 正隆 「戦前における地方計画論の普及に関する研究」
- 大熊 瑞樹 「都市のvitalityに関する研究」
- 神原 康介 「小規模分散型介護施設と地域づくりに関する研究」
- 熊谷 俊一 「日本におけるショッピングセンター型の発展形の現状利用の評価に関する研究」
- 黒川 佑人 「都市における公開空地の連続性に関する研究」
- 櫻庭 敬子 「川口式多文化共生の都市空間」
- 鈴木 亮平 「ワルシャワ戦災復興」
- 永野 真義 「団地研究」
- 山下 航司 「日本の近代集合住宅における住戸と共有空間の接近とその社会的背景」

都市デザイン研究室 瓦版

情報欄



▲論文提出間際の食事風景

D論審査迫る

今学期、D3永瀬、チー、ティアムスーンさんの3人が博士論文を提出しました。先陣を切って永瀬さんの審査会が7月27日に開かれます。是非皆さんで応援に!

7月の予定

- 7月16日 研究室会議
- 7月16日~ 足助現地調査
- 7月27日 D3永瀬さん審査会
- 7月27日 夏学期ジュリー

編集後記

昨年度から始まったマガジンの「カラフル化」ですが、そういえば赤系の紙面は数えるほど少ない。季節の色を採用することが多いので、赤は自然と選択肢から漏れてしまうのでしょうか。101号から情報欄を設けました。それに伴い今号では少しレイアウトを改善しています。毎号地道に変化していくマガジンをお見逃し無く。情報欄など記事掲載依頼は magazine@ud.t.u-tokyo.ac.jpまで。